



初等・中等教育における授業参画型音楽アウトリーチ活動

教育学部 音楽教育専攻教員 音楽教育連携推進室 室長：河添達也他

初期の音楽アウトリーチでは、プロの演奏家が手持ちのプログラムを携えて地方の学校を訪問し、「本物の」演奏を聴取する機会を提供する、いわゆる「鑑賞教室型」が主流でした。しかし近年、初等・中等学校におけるアウトリーチは、単なる鑑賞機会の提供にとどまらず、新たな音楽教育の可能性を模索する「教育プロジェクト型」へとその視座が移行しつつあります。

教育学部 音楽教育連携推進室では、これまでNHK交響楽団の演奏者やドイツの打楽器アンサンブル等の著名な演奏家等と協働し、多数の授業参画型・音楽アウトリーチを提案してきましたが、加えて、院生や学生を演奏者とする具体的な授業提案も数多く実践してまいりました。

島根大学の、このような授業参画型アウトリーチの実践は、2019年度の教育大学協会音楽部門の全国大会でも高い評価を受け、その一端は学術論文としても広く報告されています。教育学部ならではの音楽アウトリーチとして、注目を集めています。



声楽家の松平敬氏を招へいして実施した図形楽譜を用いた声楽作品の音楽づくり



院生・学生による授業参画型アウトリーチ「木管楽器の音色を味わおう」